

今月初めの子どもの姿

●母親と離れる際は、泣くことなく保育者に抱かれて保育室内をじっと見つめている。 ●はいはい、つかまり立ちなどの移動運動が盛んになる。興味のある玩具に手を伸ばし、動かしたりして遊ぶ。

ねらい

●生活リズムを大切に、生理的欲求を満たすことで、心地よい生活を送る。 ●特定の保育者と関わりながら、触れ合い遊びを楽しみ、信頼関係を深める。

安全・健康

●毎朝子どもの健康観察を丁寧に行い、生活リズムを整える。また、心地よく過ごしやすい保育室の環境を整える。 ●乳児室内を清潔に保つだけでなく、子どもたちの手洗いの仕上げを丁寧に行い、感染症を予防する。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<p>●生活の様子（授乳量・食事・睡眠）や、リズム、癖などを把握してもらい、安心して生活し、新しい環境に慣れる。</p> <p>●特定の保育者との関わりを喜び、信頼関係を深めて機嫌よく生活する。</p> <p>●保育者の愛のある丁寧な関わりの中で、情緒を安定させる。</p>	<p>●連絡帳を職員全員が目を通しやすい場所に置き、一緒に個々の生活の流れを記入しておくボードを準備する。</p> <p>●食事、遊び、睡眠スペースを区切り、落ち着いて生活したり、安心した環境をつくる。</p>	<p>●眠りたいが、新しい環境に慣れず、眠ることができない。</p> <p>●受け入れ時、保護者と離れると泣くが保育者が抱っこすると泣きやむ。</p> <p>●特定の保育者の後追いをする。</p> <p>●保育者がそばから離れると泣く。</p>	<p>●個々の生活リズムに応じて生理的欲求を満たし、気持ちよく生活に慣れるようにする。また、家庭と似た環境の中で生活できるように、個々の生活リズム、癖などを把握する。</p> <p>●朝の受け入れは、なるべく同じ保育者が行き、徐々に保育園生活に慣れるように、職員間での連絡を密にする。</p>
教育	<p>●自分なりの方法で、体を動かすことを楽しむ。</p> <p>●好きな玩具を見付け、音を鳴らしたり動かしたりして楽しむ。</p> <p>●安心できる保育者を見付け、触れ合い遊びを楽しむ。</p>	<p>●つかまり立ちや、つたい歩きができるような、机や牛乳パックの囲いなど、歩行を促すことができる玩具を準備する。</p> <p>●子どもたちに背を向けず、常に全体を見渡すことができる位置に保育者が点在するよう気を付ける。</p> <p>●優しく名前を呼び、笑顔を見せて、安心できる環境をつくる。</p>	<p>●つかまり立ちをする際、転倒する。</p> <p>●立てたことを喜び、自分で拍手する。</p> <p>●玩具を手にとってなめたり、振って音を出したり、投げたりする。</p> <p>●はいはいとともに玩具を動かす。</p> <p>●保育者の膝の上に座り、膝を動かしてもらったり、くすぐり遊びを喜ぶ。</p> <p>●手を広げて抱っこを求める。●ざり遣いを楽しむ。</p>	<p>●少し離れた場所から子どもの名前を呼び、保育者の元まで来たときは抱きしめ、自分で移動できた喜びを味わえるようにする。</p> <p>●手に物を持つと投げてしまう子には、投げるという経験ができるよう小さなボールを準備する。</p> <p>●子どもの目を見て名前を呼び、かわいいという気持ちを込めて接し、子どもが保育者との関わりに安心感を持つるようにする。</p>

食育

●食品調査票を定期的に家庭に渡し、食べられるようになった食材を常に把握できるよう、家庭とこまめに連絡を取り合い、園と家庭とで離乳の進め方を一貫させる。

●様々な食材や、形状に慣れるようにする。 ●スプーンや手づかみでの食事や感触に慣れるようにする。

職員との連携

●受け入れ時は、特定の保育者が受け入れをし、安心して過ごせるようにする。 ●個々の生活の仕方や癖を把握しておく。

●食事・睡眠・排泄など様々な場面において職員間での役割分担を決めておく。その場に応じて柔軟な対応ができるよう、どの職員でも全ての役割が担えるようにしておく。

家庭との連携

●園と家庭での生活が連続したものとなるように、家庭での様子を細かく聞き、また、保育園での様子も細かく伝え、子どもも保護者も安心して園生活を送ることができるようにする。

●疲れが出やすい時期であることを話し、子どもの体調を注意して見てもらうように伝える。

評価・反省